

令和6年度 授業改善推進プラン 第4学年

小平市立上宿小学校

各教科及び道徳	学習状況	指導上の課題	改善の計画	評価の方法
国語科	文章のおおまかな内容を捉えることができるようになってきている。自分の考えを、隣同士、少人数グループ、クラス全体と形態を変えながら活動している。	①自分の考えをノートや発表で全体の前で表現すること。 ②文章構成を考えながら段落を意識して書くこと。 ③漢字を正しく読み書きすること。	①書き方のモデルを提示したり、安心して発表できる雰囲気や自信をもって発表できるように意図的に場を多く設定したりする。 ②文章の構成を意識して読ませる。文章構成を考えて書く学習過程を設定したり、書いた文章を再検討させたりする学習過程を設定する。 ③漢字の学習方法や家庭学習方法の指導を充実させる。	ねらいに照らし合わせて自己評価させたり、ノート等の記述を基に友達同士で評価させたり、指導者が評価して変容を認めたりする。
社会科	単元ごとに課題をつかみ、学習計画を立て、調べることに関心をもって取り組んでいる。	①課題に対して、適切な資料や方法を選んで調べること。 ②必要な情報を精選し、学んだことを表現すること。	①どのように資料や学習者用端末を活用すると効果的か、課題に沿って考えさせる。 ②書き方のモデルを提示すること。「学習計画」「単元を貫く問い」を毎時間意識させて調べさせる。	発表やノートなどの記述から気付きや分かったことを評価する。小単元の終わりに、「問い」についてまとめた「自分の考え」を評価する。
算数科	基礎コースでは、学習内容の確実な習熟を目指し、教科書の例題や類題に取り組んでいる。発展コースでは、より多くの練習問題を解いて習熟を図るとともに、交流の場で自分の考えを発信することに取り組んでいる。デジタルドリルで毎時間、既習事項の復習を行っている。	①簡単な絵や図、式に表して、自力解決すること。他者に自分の解決方法を説明すること。 ②既習事項の習得を図ること。	①絵や線分図に表して考える方法(手だて)を具体的に例示し、指導する。解決の見通しを共有させ、習得した手だてを活用させるようにする。 ②練習問題に多く取り組みせ、個別指導の時間を確保する。	活用した手だてや答えを導き出すまでの一人一人の考え、用語や用具の使い方を、ノート記述や発表、説明で評価する。評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
理科	観察・実験に対して意欲的である。生活の体験などから、自分なりに予想を立てることができる。	観察や実験の結果を関係付けて考え、結論に結び付けて考えること。自分なりに予想を立てること。	問題、予想、実験結果、まとめ(問題に対する結論)をノートに書く活動では、自分の考えも合わせて記述させる。その後、学級で交流し、多様な考えに触れさせる。	発表やノートの記述、気付きや疑問、まとめ方を評価する。
音楽科	歌唱や、リコーダーの演奏を通して、表現のしかたに興味をもって取り組んでいる。	楽曲から聴き取ったことや感じ取ったことを言葉などで表すこと。	一人一人が感じた楽曲の特徴や演奏のよさを言葉や音で伝え合い、考えを広げたり、友達のアイディアのよさを認めたりする場面を多く設定する。	活動の様子、発言内容、ワークシート、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	友達と関わりながら、活発に造形活動に取り組んでいる。発想することを楽しみながら、作品をつくっている。新しく学ぶ道具に関心を高くもっている。	①つくりたいものを思い描いてイメージを広げること。 ②表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かし、表し方を工夫すること。	①友達の完成した作品だけではなく、制作過程の作品を提示し、活動の意欲につなげる ②材料や用具について、正しい使い方や特徴を学習する時間を設定する。用具の正しい使い方に慣れるように復習をする。	活動の様子・発言・作品・などを通して評価する。
体育科	意欲的な活動が見られる。教え合いや協力する時間を設けたりしながら学習している。	よりよく運動するためにはどうすればよいか考える力を身に付けること。(技能の獲得、作戦など)	①意図的に思考させる場面を設定する。練習方法の提示をして、その中から個人やチームで選択したり、工夫したりできるようにする。 ②小グループでの学習の機会を作り、学び合い、教え合いの場を作る。	技能の評価だけでなく、発言や学習カードを使った振り返りを通して評価する。
外国語活動	アクティビティやゲームを通して、外国語を活用したコミュニケーションを楽しんでいる。	積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。また、関心の差が大きいこと。	①教師が積極的に、外国語で話しかけ、外国語を話しやすい雰囲気を作る。 ②どのように話すか疑問をもたせたり、日本語との違いを伝えたりして関心を引き出す。	活動の様子、振り返りカードなどを通して評価する。
道徳	登場人物の気持ちに共感させ、心情・態度を養っている。自分の経験を振り返り、友達と考えを交流することによって多面的な見方をしようとしている。	道徳的価値の理解、人間理解、他者理解について深めていくよう指導の工夫をすること。感じたことをより多くの児童が積極的に交流すること。	①道徳的価値の意義及びその大切さの理解を基に、物事を多面的・多角的に考えさせる。 ②自己の生き方の課題を見付け、それを解決していこうとする思いや願いを深めることができるように、話し合いや議論を充実させていく。	自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容で評価する。

